

ふじぎくら



やまなし男と女とのフォーラム 表彰(6月11日)



第6期 男女共同参画審議会スタート(5月14日)

目次

特集 「男」「女」が共に輝く地域づくり	2
我が社のワークライフバランス	4
チャレンジインタビュー	5
審議会委員の改選	6
やまなし男と女とのフォーラム	7
県からのお知らせ	8





「男」「女」が共に

地域における男女共同参画への取組事業がスタート!

～地域男女共同参画推進員を委嘱しました～



6月18日、男女共同参画推進センターぴゅあ総合にて「地域男女共同参画推進員」を25名の方に委嘱しました。

「地域男女共同参画推進員」は、高齢化の進行や人間関係の希薄化など社会のさまざまな変化の中で、活力ある豊かな社会を築いていくために、自治会等の地域活動への男女共同参画の取組を推進することを目的として平成24年度から設置しました。

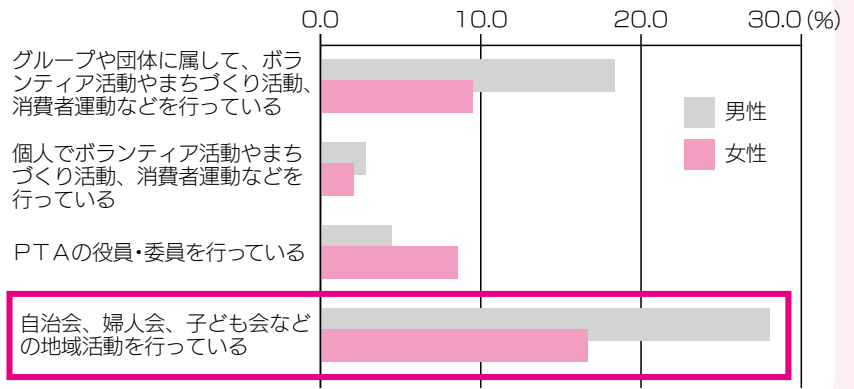
今年度委嘱されました地域男女共同参画推進員の皆様には、「防災」をテーマとして地域の男女共同参画を推進していくため、県、市町村及び男女共同参画に関する関係団体等と協力しながら、地域の課題解決に向けた取組を実践していただきます。任期は平成26年3月31日までの2年間です。

データで見る『地域における男女共同参画』の現状

右のグラフは家庭の外で仕事以外に何か活動をしているかを尋ねたものです。

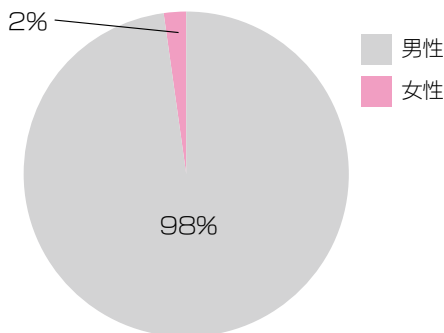
地域活動への参加の割合は、PTAの役員・委員は女性の方が多いものの、地域に最も身近な自治会等への女性の参加は未だ少ない状況です。

また、自治会長に占める女性の割合も山梨県は2% (H23) となっており、全国平均の4.3%と比較しても低くなっています。

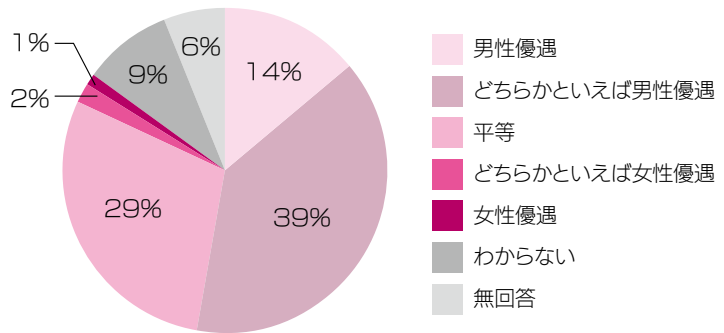


(資料: 県民生活・男女参画課「平成22年度男女共同参画に関する県民意識・実態調査」)

自治会長に占める女性の割合(山梨県)

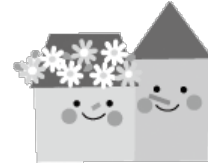


地域における男女の不平等感



(資料: 県民生活・男女参画課「平成22年度男女共同参画に関する県民意識・実態調査」)

輝く地域づくり



講演

「地域を変える男女共同参画の試み

—地域が変われば社会は変わる!—

6月18日「地域における男女共同参画実践活動支援事業」の委嘱式に続いて、東京未来大学の准教授である石阪督規さんの講演会を開催しました。そのお話の一端をご紹介します。

●『男女共同参画』について考えてみました!

私が男女共同参画について勉強を始めたのは、いまから十年以上前に三重県の市町村の方から審議会委員をお願いされたことがきっかけです。そこから国の法律や日本全国のいろいろな条例を読み、男女共同参画とは何なのかを自分なりに考えてきました。

すると、男女共同参画というのは、男と女を単に平等にすればよいというだけではないこと、そして、その理念や考え方に一つ矛盾を抱えていることがわかってきました。

男女共同参画社会とは「お互いの人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」と男女共同参画社会基本法で定められています。「性別に関わりなく」というのは、男女平等、性差別の解消を表します。一方、「個性と能力を発揮する」というのは、個人の個性や能力を発揮する機会を確保することを指し、個人の自由を認めるということを指します。

では、格差を解消しようとする「平等」と、個人の能力を発揮する「自由」とが、矛盾してしまった場合はどうすればよいのでしょうか。時として反することにもなる「平等」と「自由」とをともに含む理念をもつ男女共同参画が、「わかりにくい」といわれるゆえんです。

私はこのようなことを考えるうちに、「自由」を「個人の幸せ」と捉え、個人の幸せを達成するために不均衡なものがあるとすれば、それを「平等」化という手段において達成すればよいのではないか、と考えるようになりました。女性の登用率などの数値目標は「個人の幸せ」に到達するための手段であり、むしろ結果として、「地域がよくなったのか」「住みやすくなったのか」ということにこそ、実は大きな意味があるというわけです。男女共同参画の推進と地域で進めるまちづくりや人づくりは、そうした点で大きな関連があるといっただけでしょう。

●『男女共同参画』のマインドを活かした地域づくりを進めよう!

これから高齢化が進み人口が減少していく中で、地域を住みやすく変えていくためには、これまでのような大規模開発や企業誘致などの拡大路線をとるのではなく、いろいろな日常の取組の中に、さまざまな人のアイディアや考え方を取り入れていく『男女共同参画』のマインドが重要になってきます。

今後は、行政、市民、学校等の官民学連携により、地域の中で抱える課題をそれぞれ洗い出し、そこにこの『男女共同参画』のマインドを溶かし込んだ地域づくりが必要になってくると思います。



石阪 督規 氏

東京未来大学准教授

●2000年 広島大学大学院社会科学研究科博士課程後期単位取得。三重大学人文学部准教授を経て、2012年東京未来大学准教授。

専門分野は社会学・地域社会学で、具体には社会調査や地域調査のほか、地域振興・まちづくり、男女共同参画など多岐に渡っている。

男女共同参画の3つのマインド

①多様性を認める

男女共同参画にはいろいろな考え方があり、人によって全然捉え方が違います。

世の中には男と女だけではなく、高齢者や子どもといったさまざまな立場の方がいます。そういった人の考え方や生き方といった多様化を認める、これが男女共同参画のスタートです。

②ライフスタイルを見直す(=常識を疑う)

当たり前だと思われていることを一旦疑ってみることは、男女共同参画を進めていく上で、とても重要な感覚です。当たり前や常識を疑うことから、新しい考え方やライフスタイルが生まれてくるはずですよ。

③総力戦

男女共同参画というのは、よく女性のためのものだと勘違いされるのですが、決して女性のためだけのものではないと思っています。男も女も老いも若いもなく、みんなで取り組んでいくことが重要です。

我が社のワーク・ライフ・バランス Vol.2

(株)シラネパック (南アルプス市)

ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業を紹介します!

企業概要



所在地	〒400-0222 山梨県南アルプス市飯野3686		
TEL	055-282-6882	FAX	055-282-6577
社員数	10名(男性7名:女性3名)		
資本金	600万円	年商	2億8千万円
事業内容	●ダンボール箱の製造販売 ●土木用裏型枠の製造販売 ●梱包資材の販売 ●化粧箱のデザインなど		
その他	1998年 山梨労働局 山梨女性少年室協助手員 2001年 厚生労働省 中央最低賃金審議委員 2007年 子育て応援宣言企業として山梨県へ登録 2008年 男女いきいき輝き宣言企業として山梨県へ登録 2010年 全国商工会議所 女性起業家優秀賞を受賞 2011~2012年 南アルプス市男女共同参画審議委員 2012年 山梨県男女共同参画推進事業者 2012年 山梨労働局雇用均等行政推進委員		

● ワーク・ライフ・バランスに取り組む経緯

今から35年前は男尊女卑の時代で男女が平等に働くことが出来ず、女性が持てる能力・知力を発揮することが出来ない社会でした。女性であるがために性の差別があり、特に子どもがいると職場では早期退職に追い込まれたり、または昇進の機会も与えられず下積み生活を余儀なくされていました。

私は27年間勤めた団体職員を退職して、45歳で男女が平等に働ける会社を創業しました。過去の苦い経験から、男女が平等に働ける職場、女性が持てる能力を十二分に発揮できる職場環境にしようと取組姿勢を変えてきました。

● 我が社の取組内容・考え方

我が社ではワーク・ライフ・バランスを推進するうえで、男性も女性も働きやすく、共に力が発揮できるよう社員の声を取り入れた取組を行っています。また、地域における取組として、小学校等と連携した事業を進めています。

①子育て社員の要望を充分に聞き入れて勤務時間を決めています。

(最近増えているシングルマザーの採用を優先し、子育て休暇を取りやすくするため、一人で出来る仕事を二人体制にしました。)

②子どもの春、夏、冬休みに合わせた休暇取得、または子どもの病気や家族の介護などの休暇を認めています。

③子育て支援として出産や育児、介護に必要な費用の貸付制度を行っています。

④男女平等で働きやすい職場をめざして、平成13年には女性管理職の登用をしました。

⑤地域の小学校の社会科授業の一環として、職場見学、実習などを行い、物づくりの大切さを学んでいただいています。

● ワーク・ライフ・バランスに取り組んだ成果など

このようにワーク・ライフ・バランスに取り組むことにより、女性の継続就業の実現や、活躍の場の拡大などの成果が出ています。

また、再就職・再チャレンジを支援するため、結婚や出産・育児・介護などで退職した社員の再雇用を優先し、安心して元の仕事に就けるシステムを作ったことで、社員が安心して働ける職場づくりが可能になったことなども成果としてあげられます。

男性も女性もすべての社員が働きやすい環境をつくっていくことで、社員のやる気ややりがいを引き出すことができ、結果として、生産性の向上につながっていくのではないかと思います。

今後も「社員が働きやすい環境」づくりを、ワーク・ライフ・バランスを取り入れながら進めていきたいと思っています。



原稿作成者：取締役会長 東條 初恵さん

チャレンジインタビュー

Vol.51

【起業】『出会い』をきっかけに 子ども服ブランドを設立!

高井 知寿子さん 子ども服ブランド franky grow デザイナー(甲府市)



■ 「知らない」を力に! Tシャツづくりからのスタート!

子どもは4歳、7歳、9歳と3人いるのですが、第2子の誕生を機に、自分の子どもに着せる服は、自分で作ってみたいと思い、Tシャツの製作から始めることにしました。

それまでは、服飾関係の仕事に就こうという選択肢はまったくなかったのですが、子どもが産まれてからは、主婦として家にいたので、「何かやりたいな」ということはずっと思っていたのかもしれない。その「何か」を始めるきっかけが、私にとっては子ども服の製作だったんです。

実際にこの仕事に携わるまでは、子ども服というブランドが世の中にこんなにあるということも知りませんでした。自分が知っている範囲では派手な服か、とってもシンプルな服か、どちらかしかないと思っていましたので、そのちょうど中間のシンプルすぎず派手すぎずという服を作りたいと思いました。

たまたま主人の友人にデザイナーさんがいましたので、その方に相談をしたら、工場などとの間に入って来て、パターンをひくことなども手伝ってくれるOEMという会社があることを聞きました。専門学校などには行っていないのですが、それが始まりで今に至っています。

高井さんのこれまで

第2子の出産を機に「何かはじめたい」と思い、Tシャツから製作を開始する。

2009年:「franky grow」を会社として設立する。合同展にも出品する。

同年11月:自宅にセレクトショップ「tizoo」をオープンする。

2010年:パリにも初出展し、海外からも問い合わせがくるブランドになる。

現在:大人服の製作をはじめると、新たなチャレンジを行っている。

■ 子どもも大人も楽しめる洋服・場所 ~『franky grow』と『tizoo』~

「franky grow」というのがブランド名で、「tizoo」というのがセレクトショップの名前です。「franky grow」では、生地や縫製にもこだわり、大きくなって着られなくなるまで楽しめる、子どもも大人も着ていて気持ちいい洋服作りを心がけています。今では日本はもちろん、海外にも何件か取引先があります。



「tizoo」は、子ども連れでもカフェに行って、お買い物してということが一気にできる場所ができたらいなという思いではじめました。子どもがいると、どこかに行くのも大変だけれども、出掛けないわけにもいかないですね。子どもを見ながら、ここで会ったお母さん同士が友達になったりして、買い物しながら話しているのを見ると、一番やって良かったなと思いますね。お店の情報は、ブログでのお知らせだけなのですが、山梨は人と人のつながりが強いからか、それでも「久しぶり」と来てくれるので、嬉しいですね。

■ これからのこと ~出会いを大事に新しいことにチャレンジ~

最初は、経験もないですし、本当に分からないことばかりでした。女性一人ということで、実績が伴ってくるまでは相手にされなかったこともありましたが、子育てで大変だったことももちろんありますけれども、諦めずに取り組みました。それから、親身になって相談に乗ってくれるOEMの方、少ない枚数でも受けてくれる工場や地元企業さんとの出会い、展示会で出会った人たちなどさまざまな人との出会いがあって、今があると思います。

『franky grow』では、今期から大人服も少しずつ手がけ始めていて、今回展示会に出している春・夏には、大人服もたくさん出します。お店でのオープンはいつになるか分かりませんが、ネットショップは常にやっています。大人服もまったく同じブランドの名前で始めようと思っているんです。ただ、子ども服をそのまま大きくしたらかわいくないものもあるので、その辺りは同じ雰囲気でもディテールを変えるなど、今後また勉強しないといけないと思っています。

常に勉強をして、自分からいろいろ知ったり出会ったりする努力を続けていくことで、今まである何かではなく、常に新しい何かを切り開いていく、そういうブランド、会社、家族でありたいと思っています。

これからチャレンジする女性へのメッセージ

チャレンジしていくには、最初から無理だとか、子どもがいるからとか、そういうことよりも自分が本当にやりたいのかが大事だと思います。

それから、自分で思っているだけでは何も始まらないので、誰かに相談したりとかして、それを自分から発信していくこと。そして何より人との出会いを大事にしていけば、そこからまた違う出会いが始まって、新しい道が広がっていきます。

まずは一歩踏み出すことで、新しい何かが見えてきます。自分が実行することで、はじめて心の中で思っているだけよりも、すてきなことだったり、子育てしているだけでは見えなかったことも見えてくると思います。これからやりたい人ってきっといっぱいいますよね。その一歩を踏み出すか踏みださないかで全然違ってくると思うので、出会いを大切に、また新しい何か出会いを見つけてほしいですね。

Vol.50以前のインタビューは、やまなし女性の応援サイト
<http://www.pref.yamanashi.jp/challenge/interviewlist.php>をご覧ください。

第6期 男女共同参画審議会がスタートしました!

5月14日、第6期男女共同参画審議会委員を委嘱し、会長に松葉惇委員、会長代理に飯窪さかえ委員が選出されました。今後、男女共同参画計画や男女共同参画の推進に関する重要事項について調査審議等を行っていきます。
(任期：平成24年5月14日～平成26年5月13日)

赤岡 直人	山梨県公立小中学校長会会長	栗田 真司	山梨大学教育人間科学部教授
有泉 妙子	市川三郷町男女共同参画推進委員会会長	小澤 廣治	公募
飯窪さかえ	山梨県女性団体協議会 相談役	齊藤 尚子	公募
伊藤ゆかり	山梨県立大学 国際政策学部 准教授	信田 恵三	山梨県弁護士会
小川はるみ	甲府市男女共同参画推進委員会委員	堀内 詠子	NPO法人「Mom」代表
柿島美保子	中道特産物加工組合加工部代表	松葉 惇	山梨県中小企業団体中央会副会長
萱原 春美	公募	矢崎 元子	公募
木内 清一	連合山梨 副会長		

男女共同参画推進月間キャンペーン

6月2日、県ではオギノ・リバーシティショッピングセンター様にご協力をいただき、推進月間のキャンペーン活動を行いました。キャンペーンの中では、啓発冊子の配布のほか、イベントスペースで次のような催しも行いました。

① 紙芝居

「ジェンダーってなあに?ジェンダーチェック私たちの暮らし」
(グループWING(ウイング))

② 絵本の読み聞かせ、手遊び

「くまさん くまさん」、「ぶたがぶたれた」、「ぐるんぱのようちえん」など(昭和町立図書館よみきかせグループ ぴっかり)



デートDV防止に向けた教職員研修会を開催しました

● デートDV ～デートDV防止に向けて今できること～

8月10日、男女共同参画推進センターぴゅあ総合にて、初めて高校、大学、各種専門学校などの教職員を対象とした「デートDV」防止に向けた研修会を開催しました。

講師には、NPO法人レジリエンス副代表の西山さつきさんをお招きし、講演をいただきました。

デートDVで暴力にあっている女子高生、女子大生は5人に1人の割合であり、デートDVは決して他人事ではないということ、また、デートDVに対して学校ができること、発生したときの教師の対応などについてお話いただき、充実した研修会となりました。



西山 さつき 先生
(レジリエンス副代表)

DV被害経験後、中島幸子さん(レジリエンス代表)と出会い活動を始める。現在はこころのcare講座、学生へのデートDV防止の講座、DVやトラウマに関する講演にも活躍している。

平成24年度 やまなし男と女とのフォーラム

～思いをつなぎ共に支え合うまちづくり～

6月11日甲府市総合市民会館において、やまなし男と女とのフォーラムを開催しました。

男女共同参画推進事業者等表彰

県では、男女共同参画を推進する活動に積極的に取り組んでいる個人や事業者等を表彰しています。

今年度は、次の方々が表彰されました。

県民表彰

有泉志づ子	(市川三郷町)
長田さと子	(甲州市)
上名をさみ	(忍野村)
郷田比呂子	(西桂町)
柴田 京子	(社)国際女性教育振興会山梨県支部)
中村 暉雄	(大月市)
新田 治江	(笛吹市)
福田 勝子	(甲府市女性団体連絡協議会)
保坂 明子	(昭和町)

事業者表彰

株式会社 シラネパック
株式会社 フォネット

女性のチャレンジ表彰

農事組合法人上九ふれあいの里
八代特産品開発研究会

基調講演

『男と女の認め合い、支え合い』

【講師】

- 松岡 英子 さん (信州大学教育学部教授)

〈講演概要〉

- ・男女共同参画社会とは、一人ひとりの豊かな人生を実現し、活力ある持続可能な社会を実現するために必要な概念で、決して女性のためだけのものではありません。仕事も子育ても父親と母親がそれぞれ共に行うことで、男性も楽になり、子どもにとっても良い環境を作れます。
- ・企業や地域の活動の中にも男性、女性の多様な視点を取り入れることで、新しい価値の創造につながります。
- ・世界各国と比較すると、日本は管理的職業に就いている女性の割合も、6歳未満児のいる夫の家事・育児に関わる時間もまだまだ少ない状況です。
- ・これからの男女共同参画は、「皆さん方一人ひとりの力、咲かそうあなた力」ということで、皆さんにエールを送らせていただきます。

展示

*関係団体、市町村、男女共同参画推進委員会の活動状況についての展示も行われました。



シンポジウム

シンポジウムでは、それぞれの地域での活躍や男女共同参画の取組についてお話をいただきました。

【シンポジスト】

- 飯窪 さかえ さん (山梨県女性団体協議会相談役)
- 小野 隆 さん (NPO法人南アルプスファームフィールドトリップ理事長)
- 佐藤 良子 さん (立川市大山自治会会長)

【コーディネーター】

- 松岡 英子 さん (信州大学教育学部教授)

〈シンポジウム概要〉

飯窪さん 男女共同参画推進に関するアンケート調査の結果を踏まえると、推進体制などまだまだ課題が多いです。コミュニティ、あるいは県民一人ひとりの考え方を変えていくためには、皆さんと一緒に話し合いの場を設け、問題意識・情報を共有しながらの協働、町づくり運動が必要だと考えます。

小野さん ジャムづくりの活動などを通して感じたことは、一人の力ではなく、いろいろな知恵を持っている人の助けを借りながら行うことで、さまざまなアイデアが実現し、組織としても活性化していくことができるということです。

佐藤さん 今年で13年目の自治会長となりますが、「ここに住んで良かった」と思える自治組織を作っていくために、住民の人材バンク設立、子育て支援センター大山MS C等の設置、企業との連携による孤独死の防止などに取り組んできました。人が人を作り、人を助けることによって自分も助けられる、そんな意味合いをもって自治会活動を行っています。



県からの お知らせ

これからの
事業のご案内



秋も徐々に深まり、お出かけしやすい季節です。
県及び男女共同参画推進センターの事業にもぜひ足を運んでみてください。

★ 配偶者等からの暴力（DV）についての講演会

平成24年11月14日（水）13：30～ 男女共同参画推進センターぴゅあ総合にて
講演会を行います。

- 講演：身近な問題「DV」について知ろう～だれにでもおきるDV・デートDV～
- 講師：山口 のり子さん（アウェア代表）

★ DV防止啓発企画展示「暴力はダメ」の開催

平成24年11月13日から25日 男女共同参画推進センターぴゅあ総合にて
配偶者からの暴力（DV）について知っていただくため、資料やパネルを展示します。



- 男女共同参画を積極的に推進している・推進しようとする企業の皆さんの応募をお待ちしています！

詳しくは
こちら

▶ <http://www.pref.yamanashi.jp/kenmin-skt/30054557987.html>



『やまなし女性の応援サイト』
御活用ください！

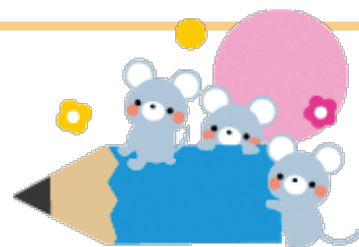
- やまなし女性の応援サイトでは、チャレンジする女性に役立つ講座やイベントの情報、支援機関の紹介、現在チャレンジしている方のインタビュー記事を掲載し、チャレンジするあなたを応援します！

詳しくは
こちら

▶ <http://www.pref.yamanashi.jp/challenge/index.php>

編集後記

今年は例年にも増して暑い日々が続きましたが、みなさん体調はいかがでしたか？
今回のふじざくらでは、『地域』に焦点をあてて特集を組んでみました。私たちの一番身近な『地域』では、どんな取組ができるのでしょうか？県でも、今年度から「地域男女共同参画推進員」を委嘱し、地域への取組を進めていきます。



編集・発行

山梨県県民生活・男女参画課

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 Tel. 055-223-1358 E-mail : kenmin-skt@pref.yamanashi.lg.jp

山梨県立男女共同参画推進センター

● ぴゅあ総合：〒400-0862 甲府市朝気1-2-2 Tel. 055-235-4171

● ぴゅあ峡南：〒409-2305 南巨摩郡南部町内船9353-2 Tel. 0556-64-4777

● ぴゅあ富士：〒402-0052 都留市中央3-9-3 Tel. 0554-45-1666